

平成 29 年度第 1 回仙台市協働まちづくり推進委員会（第 2 期第 6 回） 議事録

- 日 時：平成 29 年 7 月 26 日（水）19:00～20:40
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 1 委員会室
- 出席委員：風見正三委員長、大橋雄介副委員長、伊勢みゆき委員、小野みゆき委員、
佐々木秀之委員、島田福男委員、庄司真希委員、其田雅美委員、
高橋早苗委員、浜知美委員、本郷一司委員
- 事務局：市民局長、市民局次長、協働まちづくり推進部長、市民協働推進課長、
広聴統計課長、地域政策課長、市民活動サポートセンターセンター長、
協働推進係長、NPO 認証係長、他担当職員

○次第

- 1 開会
- 2 報告
 - ・協働まちづくり推進助成事業の実施状況について
- 3 議事
 - (1) 仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について
 - (2) 協働の手引き・事例集について
 - (3) 平成 28 年度協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況について
- 4 その他
- 5 閉会

○会議内容

1 開会

[事務局（協働推進係長）]

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから平成29年度第1回仙台市協働まちづくり推進委員会を開催いたします。議事に入ります前に当委員会の定足数を確認させていただきます。本日は現在おいでいただいている方が10名ということで、既に出席が過半数を超えておりますので、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第4条第2項の規定に基づきまして、会議は成立いたしますことをご報告申し上げます。

それから今年度初めての開催でございますので、ここで出席しております関係職員を紹介させていただきます。市民局長の村山光彦でございます。

[事務局（市民局長）]

村山でございます。よろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

市民局次長の小林弘美でございます。

[事務局（市民局次長）]

小林です。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

協働まちづくり推進部長の只野俊幸でございます。

[事務局（協働まちづくり推進部長）]

只野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

市民協働推進課長の上田正人でございます。

[事務局（市民協働推進課長）]

上田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

地域政策課長の小山裕行でございます。

[事務局（地域統計課長）]

小山です。よろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

広聴統計課長の佐藤友子でございます。

[事務局（広聴統計課長）]

佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

市民活動サポートセンターセンター長の太田貴でございます。

[事務局（市民活動サポートセンターセンター長）]

太田です。よろしくお願いいたします。

[事務局（協働推進係長）]

職員の紹介は以上でございます。続きまして本日の資料の確認をさせていただきます。お手元には次第、資料1「協働まちづくり推進助成事業の実施状況について」、資料1の参考資料「協働まちづくり推進助成事業 モデル事業の概要について」、資料2「市民活動サポートセンターの機能強化について」、資料2別紙「市民活動サポートセンターの機能強化実施具体案」、資料3「協働の手引き・事例集について」、資料3参考資料「協働の手引き・事例集アクションチームでの検討状況」、資料4「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況報告書（平成28年度実績）」、以上をお配りしておりますが、資料の不足などはございませんでしょうか。それではここからの議事進行は風見委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

[風見委員長]

こんばんは。最近暑い日が続き、いよいよ七夕も近づいていますが、その前にちょうど市長選も終わりました、まだ庁内も慌ただしい状況かと思えます。新市長も協働まちづくりについては大変ご理解いただいている方と承知しておりますので、市民協働がより全庁的な流れになるように、たゆまない努力で、一丸となって進めていければと思います。

29年度第1回ということで、庁内のメンバーが少し変わりましたが、この委員会としては2年の任期のちょうど中間になります。去年、一気に呵成に進めてまいりましたサポセンの機能強化と、協働の手引きについていよいよあと1年ということで、予算もつけていただいておりますので、我々としてはしっかりと加速していきたいと考えております。

いろいろな審議も重要ですが、アクションをどう起こしていくかということについて、

より実践的な、前向きな意見をいただきたいと思っています。庁内も改めて気が引き締まっているところだと思いますので、忌たんのない意見を言いながら、市民のための条例となり、アクションとなるようにやっていきたいと思っておりますので、本年もぜひよろしくをお願いします。

それでは、議事に入りたいと思います。今回の議事録署名人ですが、五十音順となりますと、庄司委員になります。よろしくお願いします。

2 報告

・協働まちづくり推進助成事業の実施状況について

[風見委員長]

報告事項については協働まちづくり推進助成事業の実施状況の報告ということで、事務局からご説明いただきたいと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

協働まちづくり推進助成事業の実施状況について、ご説明をさせていただきます。今年度より新たな助成事業といたしまして、協働まちづくり推進助成事業を実施いたしております。

前回の委員会では事業の募集を行うことについて、皆様にご報告をしておりましたが、これまでの間に助成事業を選定いたしまして、それぞれの事業がスタートしております。本日はその実施状況などについて、ご報告をさせていただきたいと思います。

まずこちらの事業ですが、複数の団体が連携して取り組む事業について助成を行うというところが趣旨でございまして、助成と合わせましてコンサルティングや必要な専門家の派遣といった支援を行っていくところを大きな特徴としています。

応募状況につきましては、今年の3月の上旬まで、3件程度というところで募集をいたしましたところ、9件の応募をいただいたところでございます。

各事業2団体以上で応募をしていただきましたが、応募団体の内訳を見ますと、町内会や地区の社会福祉協議会といった地域団体が4団体、ボランティア団体や法人格を持たない任意の団体が6団体、NPO法人が5団体、大学が3団体、その他社会福祉法人や法人が4団体というところでございます。

モデル事業の概要につきましては後程ご説明をいたしますが、学識経験者の方などで構成いたします審査会議を開きまして、審査の結果、予算上も大丈夫だということで、4事業をモデル事業として決定をしたところでございます。

すでに4事業が進み始めておりまして、今後の予定でございますけれども、サポートチーム、専門家の方々から支援をいただきながら、事業を進めてまいりまして、10月には中間報告会を予定しております。それを踏まえ、来年度以降よりよい制度として実施していけるように検討を行ってまいりたいと考えております。

ではモデル事業4事業についてご説明させていただきたいと思います。

まず1つ目といたしましては、貞山運河の利活用ということで、新浜地区の復興まちづくり事業でございます。実施団体につきましては、貞山運河研究所という法人格を持たない団体と、地元の新浜町内会が協働して行うという事業でございます。

内容といたしましては、地元の資源である貞山運河を観光資源としてPRをしていくことで、交流人口、来訪者を増やしていきたいということでございます。また運河でのイベントやシンポジウムの実施、あるいは運河のマップ作成などをこの助成事業の中で進めていくといったプロジェクトでございます。

2つ目は、交通弱者のための「かにっこ号」（仮称）の運行でございます。こちらの実施団体は3団体で、東中田地区で行われるものですが、地区の町内会、地区の中にあります社会福祉法人で高齢者の施設を運営しておられます仙台ピーナス会、それから地区の社会福祉協議会の3団体で協働して実施するというところでございます。

内容といたしましては、地域の中でご高齢の方であるとか、障害をお持ちの方であるとか、交通手段が十分ではない方に対しまして、地域団体が主体となりまして、地域交通ということで乗り合いタクシーですとか、あるいは福祉施設の送迎バスというものを活用して、地域交通を実施して、自主運行を目指していきたいといった取り組みでございます。

3つ目の事業は、仙台スポーツボランティアプロジェクトというものでございます。実施団体といたしましては、NPO法人のボランティアインフォ、ボランティア団体の市民スポーツボランティアSV2004、仙台大学の3者の協働でございます。

この事業ではスポーツボランティアをどんどん増やしていきたいということで、ホームページ、ウェブサイトなどを使ってPRすることで、スポーツボランティアの底上げを目指しています。また、ボランティア検定というものをつくって、ボランティアの質の向上を目指して一緒に取り組む活動ということでございます。

4つ目といたしましては、文教地区桜ヶ丘における大学と地域の特色を生かした世代間交流でございます。桜ヶ丘にございます宮城学院女子大学、地元の桜ヶ丘の連合町内会と一緒に取り組むもので、高齢者の方、大学の学生さん、子どもたちといった世代間の交流を一緒に取り組んでいこうというものでございます。

こちらについては大学と地域だけの取り組みに留まらず、ほかの地域でも応用可能な一般化できる取り組みをこの事業の中でやっていきたいということで、取り組まれている活動でございます。

[風見委員長]

ありがとうございます。以上、協働まちづくり推進助成事業の実施状況をご説明いただきましたが、何か質問、ご意見ありましたら、どうぞ。

[小野委員]

3点ほど教えていただきたいのですが、募集期間の1カ月で応募件数9件というのは想定されていた数字と比べてどうだったのかということと、その9件の中から今回4事業が選ばれたポイント、光る点がどんなところだったのかという点を教えていただければと思います。

また、全然レベルの違う話で恐縮ですが、この別紙資料のカエルはキャラクターとして使われるなど、何か意味があるのか教えていただければと思います。

[風見委員長]

事務局お願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

今3点ほどご質問いただきましたのでお答えしていきたいと思います。まず9件という応募件数でございますけれども、なかなかほかの地域でもない仕掛けの事業だったものですから、3件に対して、4件、5件ですとなかなか厳しいというのは、実感としてございました。

ただ実際開けてみますと、応募団体の内訳にありますとおり、市民活動されている方というのは本当に幅広くおられるということで、例えば町内会とか、地域の団体も地域の活動に留まらず、こういったプロジェクト的なものをいろいろな方と協働でやるということに対して、非常に前向きに捉えていただいていることが見えてきました。

例えば大学などもこの事業に興味・関心を持って応募いただけたことは、今後私たちが協働の取り組みを進めていくにあたってもありがたいことです。今後この事業を続けていくにあたって、さらに周知などをしながら多くの方に関心を持っていただいて、パートナーシップを持ってプロジェクトを進めていただけるとありがたいと思っているところでございます。

2つ目といたしまして今回4事業が選定されましたが、審査会議でのポイントといたしましては、やはりそのプロジェクトそのものの良し悪しということも当然ありますが、趣旨としては多様な団体が一緒にやることによって、相乗効果が生まれる取り組みというものを選定していきたいということがありましたので、特にこの4団体がほかの企画に比べると、少し点差も上のほうに来ておりまして、しかも分野的なバランスもバラエティに富むということがありました。一緒にやることによって効果が上がるというようなところが、選定のポイントになったと考えております。

最後にカエルについては、担当の職員がこういったものも入れながら、魅力ある資料をつくらうということで考えたものでございました。カエル自体に特段の意味はございません。

[小野委員]

ありがとうございます。

[風見委員長]

カエルはホップステップジャンプとかそういう意味ですか。大変ユーモアがあふれていてよろしいのではないのでしょうか。

今の話は目標とそれに対する達成目標、ゴールということですが、量と質においては、量は必ずしも規定されるものではなく、むしろこれからどういう成果を出せるかという質の問題だと思います。確かに量はもっとあったほうがいいという意味で、これから告知を広げていくということは、今小野委員がおっしゃっていただいている趣旨だと思います。

ただ、その評価については、マルチステークホルダーをどう定義して、実践するかということがこの助成事業の意味ですので、マルチステークホルダーというものが、この組み合わせからすると正直若干弱いかなと思う部分があります。

その意味では、この事業をやることによって、そういうマルチステークホルダーが連携していく仕組みをつくることも伸びだと思います。これからネットワークやプラットフォームをつくる中で、ハンズオンを含めてコーチングしていくと思うので、いろいろな専門家を入れながら、展開、指導していただければと思います。これらの事業がすべていい方向に向かえば、次につながると思います。

3 議事

(1) 仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について

[風見委員長]

それでは審議事項に入ります。審議事項 3 つありまして、仙台市市民活動サポートセンターの機能強化ということで、事務局から説明いただいて、議論入りしたいと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

サポートセンターの機能強化について、これまでの委員会でサポートセンターの機能強化のコンセプトでありますとか、あるいは強化の方向性についてご意見をいただいていた、これを踏まえまして、我々のほうで検討を進めさせていただいた、より具体的な案と今後のスケジュールについて、ご説明させていただきます。

機能強化のコンセプトといたしましては、「多様なまちづくりの担い手が集い、アイデアを交え、つながりを育む場づくり」というものでございました。

これをどう具体的に展開をしていくかソフト・ハード両面ございますが、本日はハード面についての案ということでご説明させていただきたいと思います。

1階につきましては施設に入った正面ということで、施設の顔になる部分でもございます。こういった場につきましてはコンセプトの中にありましたように、集いの場、つながりの場といったところを重視して、フレキシブルな運用もコンセプトにしながらかえた部分で

ございます。

まず「温かみがあり多様な主体が集う空間整備」ということで、壁の面や床に木材という温かみのある素材を取り入れ、あるいは家具・什器・机、椅子などについても木製のものも多く取り入れることで、雰囲気としての温かみ、居心地のよさというものをつくっていきたいと考えているところでございます。

また広いスペースを空間として用意する必要があるということで、現行図書コーナーが1階の奥にございますが、これまで同じような本がずっと置いてある空間になっていましたので、最新あるいは興味深い図書をある程度ピックアップしまして、それを少し小さい空間に分散させる形で空間を広げることで、図書をもっと見やすくするというのをやっていきたいと考えております。

それから居心地のよい空間について、カフェを置いてはどうかというところも検討したところでございます。常設のカフェという考え方もありますけれども、やはり施設整備といたしましては、かなりの投資が必要になるということがありますし、反面土地柄としても割とそういったカフェなどがいろいろあるようなところでございます。

そこではまず第一歩といたしまして、例えばイベント開催時ですとか、人がたくさん集まるような場合に、コーヒースタンド、あるいは出店を設けることでフレキシブルにやっていくのが当面いいのではないかという考え方がございます。状況を見ながら、臨時的に置くところからやっていくのが、スタートと考えたところでございます。以上が空間整備でございます。

続きまして、「総合案内・受付カウンター」でございます。これまで論点となってまいりました総合案内の機能ですとか、居心地のよさという観点で言いますと、現在の受付の圧迫感をどうするかというところでございます。

こちらにつきまして、受付を2つに分けることを考えたところでございます。1つ目の受付につきましては入り口付近に設置いたしまして、カギの受け渡しといった簡単に済むようなものを、手前でできるようにするというところでございます。

もう1つのカウンターはできるだけ圧迫感のない奥に置きまして、予約の受付、あるいは相談という、じっくり時間をかけてやるようなものに対応し、機能分散をさせながら、圧迫感の解消などに配慮して、設置してはどうかという案を考えたところでございます。

続きまして「情報発信、それから提供機能の強化」でございます。1つ目は、団体のチラシやニュースレターでございますが、やはり一番人が集まる場所にこういったものを置くことは、ニーズとしても高いであろうということがございますので、うまく空間を活用しながら置いてまいりたいということが1つです。また、「情報発信の強化」ということで、モニターなどを設置いたしまして、館内の利用状況などをわかりやすく表示することで、情報発信を進めていきたいと考えております。

最後、「バリアフリー環境の整備等」とありますが、事務局で新たに考えた部分もございました。

バリアフリー環境につきましては、施設的にバリアフリーではないところもございますが、できるだけスタッフなどもサポートを行いながら、運用でフォローを実施することを考えていきたいと思っています。

そして、まず施設に入ってもらわなければいけないという意味で、認知度、視認性の向上ということで、屋外にある表示につきましては、バックライトなどでもっと目立つような、視認性を向上させるようなことをしていきたいと考えております。一番力を入れるべき部分として、1階についてはやや詳しくご説明をさせていただきました。

2階につきましては、1階と連動した活用をいかにやっていくかというところがポイントとなってくる部分で、2点ほどございます。まず「温かみがあり、多様な主体が集う空間」の一助といたしまして、1階との一体感のある雰囲気づくりということで、主に緑化に力を入れていきたいと考えております。

一方でこの2階をどうスペースとして活用するか、ということでございますけれども、この施設の一番ネックになっている部分がバリアフリーというところで、特にこの2階につきましては、障害をお持ちの方が残念ながらアクセスできないスペースとなっております。やはりアクセスできない方がいるスペースに、新しい機能を付加することにつきましては、なかなか機能強化とは言え、使う方から前向きな評価をいただくのは難しいと考えたところでございます。

こういった考え方から、こちらのスペースにつきましては、現在事務室となっておりますが、これをほかのスペースに移転させ、皆様が利用できる空間を減らしてしまうのは、空間利用として少しもったいないということもございます。事務室につきましては、運営上の観点も合わせて、現行のスペースに置くことが、空間の使い方としては望ましいと考えたところでございます。以上が2階でございます。

続きまして、3階でございますが、1階との機能分担ということで工夫をしたところでございます。1階につきましてはオープンスペースということで、多様な方が行き交うことをコンセプトとしておりますが、3階についてはどちらかと言うと、オープンスペースではなかなかできないような相談を受けるスペースであるとか、あるいは団体情報など、落ち着いてリファレンスすることが必要な情報をこちらに持って来ることを、3階の活用として考えたところでございます。

具体的には「多目的コーナー」ということで、オープンスペースでは難しい相談対応ですとか、授乳スペースに活用できるコーナーにしたいと考えております。また、少し落ち着いてリファレンスすることが必要な情報を持って来ることで、この3階については活用していきたいと考えたところでございます。以上、3階でございます。

次に4階につきましては、これまでの議論で具体的に出てこなかったところではございましたが、この機会に研修室に一部手を加えることについて検討いたしました。

具体的には研修室3でございますが、これまで託児でご利用いただけるように、座敷のようなスペースになっておりましたが、今のところ、利用状況がさほど高くないスペース

でございました。もちろん託児などをするスペースは大切ですので、そういった機能を保ったまま、少し低い椅子などを入れて、座っても使えるような形にする改修を加え、より皆様に使っていただける研修室にしたいと考えたところでございます。以上、4階でございます。

引き続きまして5階でございます。1階と同様に、今回のコンセプトの中では非常にポイントとなってくるスペースと考えております。1階につきましては集い、つながりの場ということで、人が行き交うことをコンセプトとして重視したところですが、5階につきましてはそのアイデアを交える場というのがございます。

そういったアイデアを交える場、アイデアを出す創発の場として、皆さんがアイデアを出し合うために、使いやすい機能、環境をもう少し整備できないか、ということで考えたところでございます。

具体的には、ニーズの多い、大きいロッカーを増設することもあります。また、「交流サロンの充実」ということで、ほかの参考事例にもありますように、組み換え可能な椅子、テーブルや、アイデア出しに必要なホワイトボードなどクリエイティブな思考を助けるような什器を、従来型の打ち合わせテーブルに加えて配置することで、より使いやすい、アイデア出しがしやすい空間整備を、この5階でしていきたいと考えております。

7階につきましては、現在事務用ブースとして使用しているスペースでございます。1階の機能強化に伴いまして、もともと1階にありました学都仙台コンソーシアムの事務室を7階に移転することを考えております。

なお、事務用ブースについては、現在10ブース中2ブースの利用ということで、相対的に利用が少なくなっております。この移転に合わせて、ブース自体は使いやすいような什器を入れることで、活用しやすいものにしていこうと考えておりますが、暫定的に5ブースを減らした形にさせていただきまして、今後の状況に応じて増減をしながら利用してまいりたいと考えているところでございます。

今後のスケジュールについては、9月までに利用者の方々などからもご意見をいただいてブラッシュアップしながら、案を確定させてまいりたいと考えております。

10月からは具体的に、施工業者の選定を行いまして、年度内に工事を完了させて、年度末にはリニューアルできるように、スケジュールリングしてまいりたいと考えております。

最後に、利用者等からの意見聴取でございますが、まずこの委員会でご意見をいただきまして、案ができましたら、市民の方、サポートセンターを利用されている方、これからしていただける方にお示しをいたしまして、さらにブラッシュアップを図っていききたいと考えております。

期間は、上半期に案がつかれるように、この夏にご意見を伺ってまいりたいと考えております。対象といたしましては、現在サポートセンターを利用いただいている方、今後サポートセンターを利用していきたい団体や個人の方にご意見をお伺いしていきたいと考えておりまして、結果につきましては、次の委員会でご報告させていただいて、機

能強化の参考にしてまいりたいと考えております。

[風見委員長]

ありがとうございます。平成 27 年 4 月に協働まちづくり推進条例ができて、サポートセンターがまちづくり推進の拠点ということで位置づけられました。アクションチームに議論していただいた内容を踏まえて、ここまでまとめてまいりました。

今後のスケジュールを見ると、上半期のうちに委託の契約準備、利用者の意見収集、下半期に業者を選定して、今期に完成ということで、かなり突貫になりますが、ここまでまとまったということで、概要がもう一度俯瞰できると思います。

これについて議論していきたいと思いますが、特にアクションチーム等で関わっていただいた委員の方から何か補足等あれば、いただきたいと思います。

[佐々木委員]

アクションチームに入っておりました佐々木です。アクションチームですが、本年度はこのサポートセンターの機能強化についての議論は一切していないので、これについて我々が意見を出したことはないという状況です。若干厳しい意見を言うとするれば、本来の趣旨はある程度ポイントを絞って、選択と集中で、一部分のフルモデルチェンジのような発想を持っていました。

今回出て来た案は、現実的なところを鑑みてマイナーチェンジにしていったという印象を持っているところです。去年アクションチームでつくったパースが最初に出ているので、これを見るとすごく変わりますが、右側の図面を見ると、あんまり変える気はないなというのが本音です。例えば 2 階の部分も使えないという判断ですけど、やはりここは市民がワークショップをやったときも、ギャラリーのような形で使えないかという意見もすごく多かったので、お金の問題もあるかとは思いますが、例えば吹き抜けの部分にエレベーターを設置するとか、やり方があるのではないかなと思います。

この 1 階、2 階の部分で特にキャッチな部分も含めてがらりと変えて、1 階でイベント、2 階もギャラリーのような形で市民が展示できるようなものがないかという意見もあったので、現実的に難しいのかもしれませんが、コメントさせていただきたいと思います。

2 階の事務室はなかなか難しいと思いますが、そもそもこんなに階段が危険なのであれば、これは早急に直さないといけないですし、事務室をここに置いているということは、逆に言えば障害を持っている方はここで働けないということにもなってしまいます。こういう現状があるのであれば、何かもうちょっとアイデアを出して状況を改善していかないと、結構大きい費用が入るので、費用対効果の説明がつきづらいなという印象も持っています。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかにいかがですか。

[其田委員]

其田です。私も去年アクションチームで、いろいろと本件で話を共有させていただきました。今日この委員会に出てきた資料は、ハード面が中心になっていますが、今委員長からもあったように、スケジュール的には詰まってきている状況で、ソフト面の部分も今までの話し合いも含めて同時並行で進めていかなければと感じております。

具体的にソフト面での内容というのは、例えば交流イベントの開催や相談機能の拡充です。やはり具体的なアクションプランをいくつか立てて、ソフト面でも拡充を目指すという取り組みを肉付けしていく作業が必要ではないかと思いました。

[風見委員長]

ありがとうございます。

[庄司委員]

杜の伝言板ゆるるの庄司です。7階の事務用ブースの縮小に関して、暫定的にブースを半減し、今後の申し込み状況に応じてはスペースの拡大も対応できるようにするとあります。平成11年にサポセンがオープンしたときに、この事務用ブースができたことは、全国的に見ても珍しく、画期的な取り組みだったと思います。今、利用がないからイコール必要とされていないという判断が本当に正しいのでしょうか。

私どもで運営しているみやぎ NPO プラザでも少し体系は違いますが同じスペースを持っておりますが、やはり募集のタイミングや期間によって、ニーズはまだまだ掘り起こせる可能性があるのではないかと考えております。

丁寧な広報、例えば、スペースが使えるということだけではなく、それぞれの団体にスペースを活用して、こういう活動や展開ができるということを具体的にお伝えすることで、応募につながった例もあります。サポートセンターが、今まではNPO・市民活動団体向けに広報を中心にされていたと思いますが、多様な主体が協働のまちづくりに取り組むということで、まだまだこういったスペースを求めている組織・グループがあると思います。これからも引き続きニーズを掘り起こしながら、必要であれば、また拡大することも検討していただければと思います。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかにございますか。

[高橋委員]

高橋です。其田委員がおっしゃったことに少し付け加えさせていただきたいと思います。1階に情報発信・提供機能の強化というところがございまして、私も学生と授業等で、市民活動サポートセンターについて調べたりするものですから、そのときにすごく感じていることは、発信される情報が、前にも述べたのですが、学生が個人として参加できるようなボランティアに関する情報提供は、ほぼなされていないという実情がございまして。恐らく仙台市ボランティアセンターなどのすみ分けが意図されているからとは思いますが、今情報発信と言ったときに、学生のような若い人たちはチラシを見るより、まずホームページ等でいろいろな情報を検索した後に、さらに施設に行ってみようとなるものですから、できればホームページ等をもっと充実していただいて、例えば仙台市ボランティアセンターが社会福祉やその他の包括的な団体のボランティア情報などを扱っていますが、市民活動サポートセンターでも、管轄している NPO 団体をまずは手始めとして、その NPO が募集しているボランティア、あるいはインターンシップ情報などをまとめて、随時更新して見られるような形にすることを検討いただけないかというのは、要望として持っております。

ハード面と言った場合に、もちろんその施設の改編というのは大変なお金がかかると思いますが、実際にはホームページの機能をいじるのも、維持費として大変なお金がかかることを最初から想定しておかないと、今後そういう機能を付け加えてほしいと言ったときにはもう、ハードの施設的な面で終わりですと言われてしまいます。せっかくのチャンスなので、もっと検討いただきたいと思います。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

[伊勢委員]

伊勢でございます。今、高橋委員もおっしゃったところではありますが、やはり団体からの情報発信を、もう少し考えていただけるとありがたいというのが一点あります。というのは今の提案だと、入ったところにチラシやニュースレターを並べて、モニター等を設置とありますが、自分から興味がある情報じゃないとなかなか目に触れないと思います。

今回のコンセプトがつながりを育む場づくりなので、やはり協働という団体間同士のつながりをうまくつくれるような仕掛けが必要と思っております。

例えば、団体がこういう団体とこういうことをやっていきたい、と意思表示ができる仕掛けがあると、そういう情報を見える化し、サポセンのスタッフが促すことができるのではないかとこのころがありました。

2 つ目は壁面を有効活用できないかということころです。例えばアイデアを交え、つながりを育むとか、担い手が集ってというときに、やはりそういういろいろなアイデアを出すというところ、5階の交流コーナーの活用があります。パッと集まったいろいろな人が、その場で何か面白いことできないかというとき、壁面をホワイトボードにするという

のが増えているのも実態なので、気軽に対話ができて、何か書いて、ああ、面白そうだねといったつながりが簡単にできるような工夫があってもいいと思いました。

[風見委員長]

ほかにございますか。どうぞ。

[本郷委員]

本郷です。私は、最初にカフェの検討をされたことがありましたので、ぜひカフェが常設できたらよかったと思いました。多様な主体の交流の場になると思いますので、1階と5階の交流サロンが一番ポイントになってきますが、ゆっくりお話ができるのかが心配です。

若者には、やはりおいしいカフェに入りたいといった要望がありますし、其田委員がいらっしゃる東北学院大学さんも土樋のホーイ記念館などをきれいにして、おいしいパンやコーヒーが飲めるようなスペースを提供していますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

サポセンになる前にピーブという名称を前面に出していた際は、2階が昔市内のホテルのレストランが入っていて、確か1階が厨房になっていたと思います。予算的な面もありますが、一回つくってしまうと活用の仕方が制限されるので、ぜひ要望させていただきます。

[風見委員長]

ありがとうございます。いかがでしょうか、ほかに、どうぞ。

[浜委員]

私も皆さんと同じような意見で、情報発信が少し足りないと感じています。この施設で多くの人が入って、講義やイベントが開ける場所は地下になるのでしょうか。そこは変えないのでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

市民シアターというところがございまして、そこは現状のまま活用する予定です。

[浜委員]

そちらの予約は今の状況で結構入っていますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

主に土日に利用されることが多く、平日の日中はなかなか活用される方が少ないのが現状です。

[浜委員]

最近、セミナーのようなものが開ける場所を探していたのですが、エル・ソーラはいい、そういう施設がないかと探していたこともあり、市民活動という縛りはありますが、誰でも使える場所があればいいと感じていました。

例えば外にデジタルサイネージなどを置けば、この施設はこういう場所だとアピールすることもできるので、工夫次第で情報発信はできるかと思いました。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかに何かございますか。それでは一度議論をまとめたと思います。佐々木委員がおっしゃっていた件、最初にアクションチームがあり、その後内部化されて、少し検討されていた期間があったと思います。

今回全体を俯瞰して見ていただいたときに、各委員の意見は重いですし、予算も期間もあるので、どうするかを改めて考えなければならないと思います。全体として、1階・2階の一体的な利用と5階に関する意見は、とても有効だったと思います。

私は建築が専門なので、目玉となるところをどうつくるかという議論については、予算があればいくらでもやりたいですが、1階・2階の総合的な活用ということを考えたいと思います。

先ほど佐々木委員からアリーナにするような意見がありました。これは1階・2階を同時に利用する場合、改装費を含めてかなり大がかりになるので、現実論としてどういう利用ができるか考えるべきことと思います。

特に、今回バリアフリー化ができるかということは、大きな効果測定の際に考える必要がありますが、予算と機能の全部を考えなければいけないので、結論ではなく課題としてあるということです。

交流的な部分で1階と5階を拠点化できる可能性があるのというのは、皆さん感じておられるのではないかと思います。

また、其田委員もおっしゃった、ハードの話だけになっているという点について、もともとはソフトが重要なので、ソフトを変える意味でハードがどうかという機能と構造、事業と空間の観点です。

そういうものをどう結びつけるかということを再評価していただいて、今まで議論していただいた議事録があると思うので、足りない部分や新しい機能について、まちづくりの拠点として見たときに、こういう機能があるからこういう構造に変えたというシナリオがあったほうが、後で評価するときに説明もしやすいと思います。目玉をどうするかというコントラストをつけたほうがいいという感じがいたします。

また、庄司委員からあったような、今までのサポセンらしい使い方、事務用ブースの使い方、そういうものの残し方や活用の仕方もあるでしょうし、伊勢委員がおっしゃったような、いろいろな情報の伝達方法もあるでしょう。浜委員からデジタルサイネージの話も

出ましたが、建物自体、洗練されていますがあまり主張がないので、中と外での情報発信は両方大事だと思います。

そういう意味ではデジタルサイネージが一番いいと思いますが、外壁をどのくらいいじれるか、外への情報発信をどのくらいできるか、検討してもらわないといけないかなと思います。

また、高橋委員からあったボランティア情報のやり取り、情報の役割分担もありますし、本郷委員もおっしゃっていたようなカフェは、地元の手づくりパンが食べられるといった、東北学院大の例がありましたけど、地元の市民活動を応援するようなコミュニティビジネス的な場所というのも、評価ポイントになると思います。やっどこまでまとめていただいて、それはとても評価していますが、お金をつかう以上、目標に対する到達点と評価が必ずついてくるので、どこを目玉として評価してもらうのかということをしっかり考えていただいて、市民の意見を聞くステージも含めてもう少しこの上半期に検討をしていただければと思います。上半期が勝負だと思うので、そこをもう一度、各委員のご意見を踏まえて、議論していただきたいと思います。

いいものをつくりたいという思いは皆さん一緒ですので、必要に応じてアクションチームを集めていただきまして、議論を広げるというよりは、どこに落としどころをつけるかを話し合っていたいただきたいと思います。事務局から、今までの意見について何かありますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

ご意見ありがとうございます。私どもも皆様方の意見いただいたものも含めて、悩みながらこの案つくってまいりましたが、やはり冒頭で佐々木委員がおっしゃったように、この1階と2階の連動した活用については、私どもも何がベストかというところで頭を悩ませながら考えていたところです。

確かに佐々木委員もおっしゃるとおり、バリアフリーであることが一番望ましく、事務室を2階に引き続き配置したとしても、やはり障害をお持ちの方が働く環境をつくるという意味では、しっかりバリアフリーにしておくことがひとつ大事なことで考えております。

その一方で、今回こちらの施設改修に投資できるお金の中で、どこまでできるかというところと、目玉として打ち出していくところのバランスを、もう一度しっかり考えながらやっていきたいと思います。

またほかの委員の皆さんからもソフト事業についてお話しいただきましたので、やはりハードとソフト、特に情報発信の部分などをバランスよくやっていく必要があるかと思えますので、検討をさらに進めていきたいと考えております。

[風見委員長]

委員にはそれぞれの分野の方がおられるので、活用していただければと思います。せつ

かくですので、サポセンのセンター長にも、サポセンの機能革新にもつながることなので、今までの検討状況で一言コメントがあれば、いただければと思います。

[事務局（市民活動サポートセンターセンター長）]

サポートセンターの太田です。いただいた意見の中で 2 階をバリアフリーにしたいというのは強くありますが、エレベーターをつくってしまうと、それで予算が全部なくなってしまうところがありますので、できればやりたいですが、難しいと考えております。

また、予算がハードにしか使えないのかと思っていたのですが、ソフト機能の充実に回していただけるのであれば、ぜひホームページでの情報発信などには力を入れていきたいところではあります。

伊勢委員からあった壁面のホワイトボード化については、スタッフからも意見が出ていたので、今後の意見交換の中で組み込めていけたらと思っています。

カフェについては、採算の部分がありますので、実際のところ難しいのではと考えております。

[風見委員長]

ありがとうございます。改めて質問ですが、予算のソフト・ハードへの配分についての規定はどうなっていますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

今年度の予算はハード整備ということについております。ただし、組み替えによって、ソフトに回すことは可能ですが、その分、ハードへの予算が減っていきますので、どうバランスよくやっていくかということになってくるかと思っております。

[風見委員長]

それは費用対効果の話だと思います。費用対効果を言うほどまとまった金額は取れていませんが、段階的に変えていくことも含めて考えていくことが必要ではないでしょうか。今回のような全体の整備計画やリニューアルを考える時期というのはチャンスですよ。

無理難題と捉えずに、いいとこ取りをしていただいて、全体の構想の中で、ここここをまず実現し、次に予算を取って、これとこれをやろうという形で、センター長もおっしゃっていましたが、現実的な予算だとエレベーターを設置して終わるといのはあるのかもしれませんが、意向としてあるのであればやはりやるべきで、ただ今回はできないという考え方になるのだと思います。

例えばこれについては次年度以降という話が、下作業としてあっていいのではないかと思います。その意味で次の予算の獲得が必要なわけで、厳しい状況でどう取れるかというのは別にして、政策課題として見たときに、まちづくり拠点がここで一回目としての効果

を出せば、それは予算折衝上、大事なことになると思うので、ぜひシュリンク（縮小）せずに、全体像を見た上で、今回は現実的にここにお金を使うというメリハリを考えていただければと思います。

先ほどのソフトもありますが、やはり費用対効果でどこにするかということ、限られた予算でやっていただくしかないので、今日出た意見も全部やってくれということではもちろんないし、それぞれの視点から重要性を説いていただいたと思います。最後まとめる意味では、上半期にそういった仕様書をつくる前段になる、どのあたりを一番やるべきかというのはあくまで委員会としてのまとめであって、そこからその中の予算と基本設計、実際の施工段階において、どのくらいのことができるかということが決まってくると思いますし、その段階までいかないといけないことは付帯条件としてここまでできればいいといった設計になるかと思います。

厳しいスケジュールの中なので、各委員も協力できるところはぜひ協力したいと思いますので、もう少し練っていただいて、情報交換、コミュニケーションをしていただきたいと思います。

(2) 協働の手引き・事例集について

[風見委員長]

それでは協働の手引き・事例集ということで、事務局からご説明をお願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

協働の手引き・事例集につきましては、佐々木委員・浜委員・其田委員にご参加をいただきましたアクションチームで、検討を進めてまいりました。現在まで大分進捗した部分がございますので、その概要についてご説明したいと思います。

事例集でございますが、進んだ部分をポイントでご説明させていただきますと、まず仕様でございます。アクションチームの議論の中で、手に取りやすさであるとか、全体のボリューム、デザインを検討いたしまして、サイズといたしましてはB5版のサイズ、文字の向きといたしましては基本縦書きとし、一部横書きも加えていきたいと考えております。全体のボリュームといたしましては80ページ程度と考えているところでございます。

全体構成として、特集と一般の活動紹介という、大きく二つに分けようと思っております。特集は若干ピックアップして、内容も厚くすることを考えております。そのほかにいろいろ事例紹介するものについては、見開きのページで見やすくというつくりで、デザインしていければと考えております。

作成体制でございますが、実際に取材をしていただける方も巻き込みながらつくっていききたいということで、間もなく市民ライターの方も募集をいたしまして、取材に協力していただける方も巻き込みながら、作成を進めていきたいということでございます。

骨子でございますけれども、事例紹介としてはトータルで25事例を取り上げていきたい

と考えております。目次案をご説明させていただきますと、章立てといたしましては主に3章構成ということで、まず第1章のタイトルは「みんなでつくる仙台スタイル」としておりますけれども、こちらで特集事例を5つほど取り上げまして、ピックアップした形で紹介していきたいというところでございます。

第2章といたしまして、タイトル「市民協働宣言からの協働まちづくり」ということで、定型のフォーマットで20事例ほど紹介をしていきたいと考えております。

第3章といたしまして、それをまとめるような形で、「マルチパートナーシップへの時代へ」というタイトルで、協働まちづくりの今後の方向性について、いろいろな関係の方のお話などを交えながら、解説を加えるというようなところで進めていきたいと考えているところでございます。

次に、手引きでございます。制作方針については、大きくポイントが二つございまして、1つ目は、これまでありました「仙台協働本（こらぼん）」という本が、どちらかと言うと市職員の内部的参考書という性格が色濃くございましたので、今回は、協働に携わるさまざまな方々が読んで役立つノウハウというものを盛り込んでつくっていききたいと考えております。

また、もう1つのポイントとしては、先ほどご説明した事例集との連動性を意識していきたいと考えておりまして、例えば冊子のデザインでありますとか、あるいは事例集で書かれていることを、こちらの手引きではQ&A的に解説するとか、そういった連動性を意識しながらつくっていききたいと考えております。

したがってデザインとしましては、事例集のほうと連動するようなデザインにいたしますが、あまり読み物を厚くいたしますと、なかなか読み切るのが大変ということもありますので、ページ数としては事例集よりは薄めに内容を精選してつくっていききたいと考えております。

映像・WEB・パネルの制作については、事例集・手引きに合わせまして、映像でありますとか、ホームページ・WEBでありますとか、パネルなどで周知することについても、準備を進めてまいりたいと考えております。

スケジュールですが、今事例集について内容、構成なども含めて先行して進めているところでございまして、これを追いかけるように手引きほか3つも進めてまいりまして、年明けには印刷に入り、年度末には完成して、配布できるという体制を目標に置きながら、進めていきたいと考えております。

[風見委員長]

ありがとうございます。こちらも大事な作業だと思いますけど、時間が厳しい状況がスケジュールから読み取れると思います。市民にこれから周知していくためにはとても大事ですので、頑張ってくださいとお願いしておりましたアクションチームから何かアドバイスや補足をお願いしたいと思います。

[佐々木委員]

こちらの冊子についてはアクションチームでかなり深く入っておりまして、今日までにある程度デザインしたものを見せないとわからないのではないかとということで、何とかここまで準備したところです。

先ほどのサポセン整備の話がハードであれば、こちらはソフトという位置づけで検討しています。これを見て、こういう市民活動をやりたいなという思いを喚起するとか、最初に報告のありました、協働まちづくり推進助成事業というのがあるにしても、どうしても協働なのかというイメージがないので、イメージしてもらえるもの、それも人に焦点を当てたものをつくろうということで、アクションチームでは方針を決めて進めています。

最初に5つの事例をトピック的に見せて、その後は20事例をデータベースのようにまとめていくという形で、このフォーマットをつくって、今後こういうものをさらに増していけば、サポセンがリニューアルしたときに、これを基にパネル展示したり、映像を流したりという基本の素材にもなると考えています。まずこういう冊子をつくって、仙台協働本（こらぼん）のテキストともうまく連動して、ひとつの他県にないような事例となる冊子・手引き集をつくっていかうと進めていることを、補足しておきたいと思います。

[風見委員長]

ほかにかがでしよう。ではご意見、質問いただきたいと思います。いかがでしようか。

[高橋委員]

すごく素晴らしい取り組みだと思って、私も期待して、本当に早く読みたいと感じていますが、完成したときに、何年くらいで作り変えていくというサイクルがあるのかを1点お聞きしたいのと、もう1点は2,000部といったときに、仙台市内でほしいと思う方がたくさんいるだろうと思うのと同時に、ほかの県ですとか、あるいは海外から、図書館等で置きたいといった要望がある場合に、仙台市以外には値段をつけて売ることにはできないかと思いました。その収益があれば、次の活動の資金へとつながっていかないのかということ、疑問に思いましたので、そのあたりのことをお考えでしたら、お話ししていただければと思います。

[風見委員長]

これは検討チーム、事務局両方に対する質問でしようか。その方針についての議論はありましたか。事務局、どうでしようか。

[事務局（市民協働推進課長）]

今、高橋委員からご質問ございましたけれども、まず何年後に改訂ということについて

は、実はそこまで具体的なプランを持っているわけではございません。まずは今回の版を皆さんにとってよいものだと認識していただいて、それが広がり、冊子が欲しいですか、新しいものを作ってほしいということがあれば、期間を短くして続くものを制作するということは十分考えられると思っております。

またその過程の中で、これはお金を出して価値のあるものだから欲しいというようなお話などもあれば、有料配布も含めて、次回どうするかということを検討していければと考えております。印刷部数についても、今回の部数で足りるかどうかなどというのは、反響を見てもわからないところではあります。

例えばホームページなどを通して、皆さんにご覧いただけるように工夫するとか、なるべく多くの方に届けられるような仕組み、手法も考えながら進めていきたいと考えております。

[風見委員長]

よろしいですか。今後そのように広げることもあり得ると考えればいいですか。リニューアルの時期は、検討チーム、どうでしょうか。

[佐々木委員]

リニューアルの時期についての検討はこれからですが、今日は我々だけでなく、仙台にはデザインする人や、コーディネートする人がたくさんいますので、そういう人たちの力をうまく活用して、仙台市行政当局と我々だけでなく、いろんな人を巻き込んでいくことをポイントに今ここまでやってきましたので、ぜひその流れを続けていただいて、その巻き込んだ人たちが、自分たちがやりたくなる、続編を出したいと思う活動にしていくというのが重要なことと思います。

[風見委員長]

其田委員、どうぞ。

[其田委員]

リニューアルの時期は未定ですが、仕掛けとして、アクションチームでは冊子体では2,000部、これは予算上の都合もありますが、いわゆるWEB上の仙台市のホームページ、独自のホームページを設置するかというのは検討中です。恐らくコストがかからない範囲で、この冊子をPDF化して、データとして掲載していくという方向性は持っています。

少なくとも冊子は年々情報が風化していくことはありますが、WEB上の更新が特にお金がかからなければ、更新していく可能性も秘めていると考えております。修正が必要な部分も発生するかと思いますので、そこはやはり予算との兼ね合いになります。冊子の部数が今回一回目ということで、2,000部に落とし込んでいるのが実情です。

[風見委員長]

ありがとうございます。浜委員、何かありますか。

[浜委員]

やはり若い方は携帯を使って見るので、携帯でも見られるような仕組みが必要だと思います。Facebookなどであれば、やろうと思えばできるので、お金をかけずに頑張ります。

[風見委員長]

高橋委員、こういった回答でよろしいですか。やっとここまで来て、イメージが湧くので、ワクワクすると思います。ただ、このイメージをつくるのは大変だったと思いますので、これを相当数のページにするというのはかなりの覚悟がいるということで、覚悟の上で出しているというふうには評価しております。そういう意味では今後については、この組織体制の問題もあると思います。

持続可能な組織体制をつくれるかということで、幸いこれ自体が協働なので、先ほど佐々木委員、其田委員からもありましたとおり、いろんな人が入って来て、コモンズとしてこういうものを動かしていくという仕組みになればいいわけです。ただそれを維持していく上で、行政としてある程度予算が取れるものは取っていただきたいと思いますが、自立を目指すという部分もあるかもしれません。オープンパブリックなコモンズとしての情報共有という意味ではやはり、WEB上でのシェアが一番早いと思います。

そのあたりも含め、先の戦略も検討チームと事務局でもっと詰めていただいたほうがいいかもしれません。これがとてもいいということになれば、市としても予算は取りやすいと思いますけど、やはり市民が入って、オープンプラットフォームでみんなでシェアするというのは美しいのではないのでしょうか。

まちづくり事例もこういうところで見えてくれば、仙台市の協働まちづくりがある意味、全国からアクセスしやすくなるので、パフォーマンスとしてもいいような気がします。

(3) 平成 28 年度協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況について

[風見委員長]

それでは協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況について、ご説明お願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

昨年度策定いたしました協働まちづくり推進プランでございますけれども、こちらに基づきまして、仙台市では毎年、市民協働施策の推進状況を取りまとめて公表することにしております。

その公表にあたりましては、今のところ 9 月を予定しておりますが、まずはこの委員会で委員の皆様にお示ししてご意見いただいた上で、公表の手続きを進めていくことにプラン上となっておりますので、本日お示しをさせていただいたところでございます。

構成についてご説明をさせていただきますと、大きく分けて 2 つのブロックで構成しております。Ⅱの基本施策に関する事業というものにつきましては、協働まちづくりプランで掲載しております事業についてのまとめでございます。

またⅢの市民協働事業ということで掲載しているものにつきましては、プランに掲載している事業以外でも、市と市民活動されている団体が連携して実施している事業がございますので、そちらの状況について取りまとめたものでございます。

本日は、この事業一つ一つについてご審議いただくというより、大局的な視点から、今後仙台市で協働施策を進めていくにあたりまして、もっと取り組みが必要な部分であるとか、まだこういった部分が不十分であるとか、お気づきの点があればご意見をいただければと思っております。

取りまとめを行いました事務局として簡単に総括をいたしますと、プランの中でもこれまで脈々と続けてきた施策もあれば、重点的に新しく取り組んでいくということで掲載した事業もございます。

今年度 1 年間の状況を見てみますと、どちらかと言えば、新しく重点的に取り組んでいきたいと考えている事業につきましては、まだ成果が出る段階ではなく、まずは仕組みをつくったといったところが、28 年度の実施状況になっていると考えております。

例えば区役所のまちづくり拠点機能の強化でありますとか、我々のサポートセンターの活動環境の整備でありますとか、新たな助成制度の構築、こういったものについては従来からやっているものというよりは、重点的に進めていこうとしているものでございまして、まだ成果として十分に出ているものだけではないというのが、私どもの感想でございます。

今後は重点的に取り組んでいかなければならないものをしっかりと進めていけるように進行管理をしていくことが、今後のまちづくりにとっては必要なことになってくるかと考えております。

[風見委員長]

ありがとうございます。こちらについては膨大な内容ですので、またじっくり見ていただければと思いますが、特に気になる点とかご質問、ご意見があれば受けたいと思います。特によろしいでしょうか。

こういう実績が積み上げられて、ひとつの PDCA のサイクルになっていきます。関連したプロジェクトも入っているかと思っておりますので、それぞれ目を通していただいて、何か気になる点があれば事務局にお出しいただければと思います。それでは審議事項はここまで終わりにしたいと思います。

4 その他

[風見委員長]

次にその他事項に移りたいと思います。皆様から特に何かありますか。なければ事務局から、その他どうでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

今回の委員会でございますが、9月の上旬ごろに開催させていただきたいと思います。日程につきましては事務局で調整し、皆様にご連絡をさせていただきます。

[風見委員長]

それでは今日の予定した議題は以上です。最後総括すると、大きなプロジェクトの2年目の中間点になると思いますが、助成事業も動き出して、拠点事業としてのサポセンの改造と事例集と手引きが動いています。

指針を直しながら条例も変えて、この委員会の名前も変わるぐらいの大きな市民活動に仙台市が先端的に取り組んできて、そのひとつの形がサポセンだったわけです。それをもう一度リニューアルするという大きな使命をこの委員会が持てたわけですし、青写真がやっとなんかできて、それを実現しているという、道途上の状況だと思います。

ただいろいろな事業が半ばまで来ましたから、次に大事なものは、これをまとめの時期に入るということ、やはり評価だと思います。政策評価が重要になるので、やはり集中と選択があると思っています。

委員会ではいろいろな議論を活発にしていますが、委員の方々にはこれからのアドバイスは意見を集約する方向にしてほしいと思いますし、また事務局でもそれぞれの専門で意見をまとめるための意見、知恵を出すということも重要になろうかと思っています。広げるのも重要ですけど、一回収束させなければいけないと思います。

ただ、プランと将来的な構想の上で、今回実現するものということでもいいと思います。委員はどんどん移り変わっていくかもしれませんが、委員会や行政の立場、政策というのは継続していくものなので、今、我々は重要な時期に来ているのだと思います。

拠点形成は、まちづくりや市民活動だけでなく、市民活動に手厚い仙台市とマルチステークホルダーが集まって、まちづくりを推進していく拠点を、今年仙台の中心部につくるというのが、サポセン改造の重要なところなので、そのソフトとハードの強化をしっかりとやっていただきたいと思います。

それと同時に事例集と手引きは、それを市民に広げるためのひとつのツールなので、プロモーションと言ってもいいと思います。今、都市経営はシティプロデュースという時代で、やはり市民を巻き込んでいくらなので、サポセンの機能強化については、市民の意見を聞くタイミングがまだまだ少ないと正直思うところはあります。これができてくると、そういう部分が出てくると思うので、今度の部分でもなるべく広げたいと思います。

また継続的に、これを一緒につくっていけるという仕組みも検討していく必要があると感じています。助成事業の蓄積が出てきましたが、拠点ができ、プロモーションがあり、それが助成事業につながって、新しい人材をつくり、拠点ができていくというような、やはりPDCAだと思っています。去年、マチノワWEEKをやりましたが、これもリングで、PDCAもリングですので、その政策がちゃんとつながって、一つのリングになっていくようなものを我々は実現しなければいけないと思っています。次は9月になりますけど、その前にいろんな状況で情報をシェアしていただいて、アクションチームもさらに借り出していたらと思います。

今年のまとめですので、行政には大変な資料づくりを含め、予算調整をしていただかなければなりませんし、限られた予算を有効に使わなければいけないので、一丸となっていければと思います。恒例ですが、円卓会議なので、行政からもご意見をいただくのですが、局長から一言お話しいただければと思います。

[事務局（市民局長）]

今日はお忙しい中ありがとうございます。私、前職が青葉区長でございまして、地域活動、町内会をはじめとした地域活動に深い関心を寄せておりました。市長もよく話をするのですが、地域を取り巻く状況というのは非常にこれから大変厳しくなってくると、機能集約型都市などと言っておりますけれど、その影響は多分地域に一番大きく出てくるであろうと思っております。

地域は、以前のような地域のままで維持できるとは思っておりません。新しい地域のありよう、暮らしのありようを模索していかなければいけない。これは非常に痛みの伴うこととございまして、これがまさしく地域における協働だと思って取り組んでおりました。

もう一方ではその前の職では、長く都市整備局におりまして、都市計画や都市開発事業といった、まさしく地域の方々、権利者、さまざまなステークホルダーとの協働がないと成り立たない仕事をやってまいりました。

そういう意味で言いますと、この市民協働というのは仙台市の行政施策の最もベースとなるものでございまして、それをあえて市民協働条例、あるいはプランという形で出したということは、やはりそれなりの意味があるのだらうと思っております。

各局区がそれぞれの施策を展開しておりますけれども、市民局があえてこのプランを進めていくということは、やはりそれなりの具体の成果を、プラスアルファで出していかなければならないと思っておりますので、先ほど委員長からお話がございましたように、広げるだけではなくて、プランに載っているもの、具体に取り組んでいるものの成果を出していくということが、非常に重要であらうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

[風見委員長]

ありがとうございます。技術系の方が市民局の局長になるのは初めてとお聞きしています。市長とも、市民局の業務はむしろ市民の話だけではなく全庁的な話だとこれまでお話ししてきました。幹部を集めて協働のまちづくりについてお話しいただいたということもお伺いしていますが、そういう考えを草の根的に広げるのは、さらに力があるところです。都市開発というのは合意形成の嵐ですが、市民協働はその一番根っこの基盤の市民活動、もしくはまちづくりであって、自治会もコミュニティも、これから新しく変わっていかなければならない。そういう意味では自発的に躍動していくような、市民が主役のまちづくりを進めるという意味で、とても素晴らしいキャリアの局長さんがおいでになっています。我々も今年は2年目の後半戦として勝負の年であり、成果を出すときになっておりますので、行政、民間、市民が一体となって、それぞれの役割で最高の答えを出していけるように、引き続きコラボしながら議論し、いい結論を出していきたいと思っております。本年度初めてになりましたけど、活発な議論をありがとうございました。

5 閉会

[事務局（協働推進係長）]

それでは以上をもちまして、本日の委員会のほうを終了させていただきます。ありがとうございました。—了—

〈議事録署名人〉

[委員長] 風見正三

[署名人] 庄司真希